

## 演題名（予稿集原稿テンプレート）

○安全 太郎<sup>1)</sup> 安心 花子<sup>2)</sup> 教育 学<sup>1)</sup>

1) 日本安全大学危機管理学部 2) 安心高等学校

### 1. はじめに

予稿集原稿は、大会ホームページの発表演題登録の後に、予稿集原稿の提出締切日までにホームページからワードファイルで投稿してください。各締切日は、大会の会告や開催要項等でご確認願います<sup>1)</sup>。なお、提出締切日までの期間内であれば、何度でも予稿集原稿の差し替えが可能です。

### 2. 予稿集原稿の作成要領

マイクロソフトワードを用いて、A4判サイズ2ページで作成してください<sup>2)</sup>。原稿はカラーで作成頂いても構いませんが、大会プログラム・予稿集はモノクロ印刷となります。

- 余白を上25mm、下30mm、左右20mmとしてください。
- 演題名（タイトル）は、14pt（ゴシック体）で中央揃えにしてください。
- 1行空けて、氏名を12pt（ゴシック体）で記入してください。更に改行して所属を12pt（ゴシック体）で記入してください。なお氏名、所属共に右寄せとします。
- 複数の発表者で、所属が異なる場合は、氏名の右上に1)のような番号を振り、所属も対応する番号と一緒に記載してください。また、当日発表者の氏名の前に、必ず○を付けてください。
- 本文は、所属から1行空けて、10.5pt（明朝体）で記載してください。文字数や行数は本テンプレートを標準としますが、2ページに収まるように多少の変更は構いません。

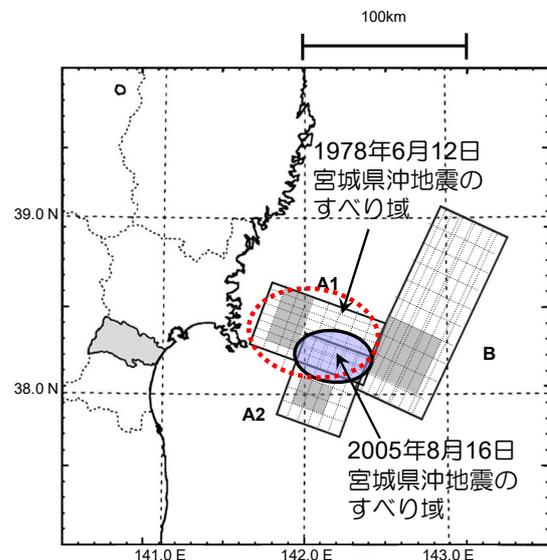


図1 想定宮城県沖地震のすべり域

### 3. 図や表の表示

図のキャプションは図の下部に10.5pt（ゴシック体）で、表のキャプションは表の上部に10.5pt（ゴシック体）で記載してください。

表1 宮城県沖地震の過去の活動<sup>3)</sup>

発生年月日	前回地震からの経過年数	地震規模	備考
1793（寛政5）年2月17日		M8.2程度	連動
1835（天保6）年7月20日	42.4年	M7.3程度	単独
1861（文久1）年10月21日	26.3年	M7.4程度	単独
1897（明治30）年2月20日	35.3年	M7.4	単独
1936（昭和11）年11月3日	39.7年	M7.5	単独
1978（昭和53）年6月12日	41.6年	M7.4	単独

#### 4. 本文の記載例

1978年の地震については、多くの調査報告や研究論文、地震観測記録が存在する。1936年、1897年の地震については、当時の被害関係資料を丹念に整理した鏡味による研究があり、ローカルな各地域の学習材となり得る情報素材が満載の学術論文である。なお、宮城県をエリアとする地方新聞である河北新報は、明治30年1月17日の創刊であることから、1897（明治30）年2月20日の地震は創刊間もない時期の地震となる。江戸時代の地震になると、記録媒体として古文書に頼るところが大きくなる。

地震史料の一例として丸吉皆川家日誌を表3に示す。ローカルな地域にとって極めて高い価値のある学習材となり得る史料である。表3の中に「鹿ノ又」という地名が見られるが、菊地が「鹿ノ又」地方の「地震柱」の存在をレポートしている（表4）。史料をアーカイブ化することにより、学習材が利活用しやすいだけでなく、学習材相互が連結され、さらに豊かな防災教育に繋がることを示唆している。

#### 5. おわりに

参考文献の記載は、以下を参考にしてください。予稿集原稿の作成にあたり、ご不明な点があれば大会実行委員会事務局までご連絡願います。

#### 謝辞

本研究は、日本安全教育学会特別研究「持続可能な地域減災社会の構築を目指した災害安全教育モデルの開発と実践に関する研究」による研究助成を受けました。また、教育モデルの開発にあたっては、日本安全大学危機管理学部の安全推進名誉教授に有益な助言を得ました。深く感謝の意を表します。

#### 参考文献

- 1) 安心 花子, 安全 太郎: 生きる力をはぐくむ学校と地域との連携による安全教育, 日本安全教育学会第18回岡山大会プログラム・予稿集, pp. 59-60, 2017.
- 2) 藤井 真美: “実践的”安全教育学の構築と本学会への期待, 安全教育学研究, 第1巻, 第1号, pp.1-2, 2001.
- 3) 長谷川 昭: 宮城県沖の地震活動の現況, 定例宮城県沖地震シンポジウム (第8回) 講演資料集, pp.1-7, 2010.